

～ふる里の水と土に感謝して～

第14回 大師の里・彦左衛門の あじさいまつり 開催

水土里ネット立梅用水、多気町、多気町勢和地域資源保全・活用協議会が協賛



賑わう水土里ネットみえのブース

あじさいが咲き誇る多気郡多気町丹生の大師の里周辺で6月13日(日)午前9時から「第14回大師の里・彦左衛門のあじさいまつり」が開かれ、会場一带は5,000人ばかりの人出でにぎわった。

時折雨の降るあいにくの天気であったが、色とりどりのあじさいが来場者の目を楽しませていた。

今回も昨年に引き続き、「美(うま)し国おこし・三重」の一環として位置付けられ、過去最多となる64団体が参画した。

オープニングセレモニーに続いて、あじさい姫の紹介、よさこいソーランフェスティバル、恒例の田んぼの綱引きなどが広い会場のあちらこちらで行われ、とりわけ途中手掘りのノミ跡が残るトンネルを抜ける立梅用水路の「ボート下り」が盛況であった。

水土里ネットみえも会場入口付近にブースを設け、毎年

恒例となった「あじさいの小径クイズラリー」を実施し、お年寄りから子どもまで800人がクイズラリーに参加した。参加者たちは、立梅用水路沿いの「アジサイの小径」の散策を楽しみながら、水土里ネットに関するクイズにチャレンジし、水土里ネットの地域での役割について理解を深めた。ゴールでは参加者にもれなくフラワーポットをプレゼントされ、笑顔で好みの花を選んでいった。

また、「田んぼの綱引き大会」では町内外の老若男女ばかりでなく、海外からのチームも参加し、大会を盛り上げ、全身泥だらけになりながら熱戦を繰り広げていた。水土里ネットみえも「米を持って帰るぞ!!」との強い意気込みのもと全力でぶつかったが、1回戦で完敗した。しかし、選手たちは来年への期待を込め大いに氣勢を上げていた。

他にも立梅用水路でのアマゴ釣り、うなぎつかみ、田んぼのコンサートなどいろいろな催し物や多くの団体が出店した特徴ある店々が軒を連ね、大にぎわいの1日であった。



フラワーポットを選ぶ参加者



奮闘する綱引きチーム